



県民の森 植物紹介

(43)

ナナカマド(バラ科)



ナナカマドは冷涼な山地に分布している高木で、高さは5-10m。北日本では街路樹、公園樹、庭木などとしても親しまれています。

漢字では七竈。名の由来は「七回かまどに入れても燃え残る」という説が有名ですが、実際は良く燃えます。これは燃えにくいのではなく炭焼きにちなんだ名前、木炭の原木として「七日間炭焼き窯に入れることで極上の炭を得ることが出来る」ことから「七日かまど」と呼ばれたことによります。備長炭はウバメガシからつくられたものが有名ですが、ナナカマドを用いたものも最高級品で、火力が強く日持ちが良く、江戸時代からウナギの蒲焼などに利用されていました。



雪を被った実 2019年12月5日

春の芽吹きはとて力強く、新芽が出たと思ったら、見る見るうちに葉や花芽が展開します。初夏、白い可愛い花が咲き、秋に鮮やかな実が出来ます。紅葉はいち早く夏ごろから色づき始めます。果実は冬になっても残っていることが多く、雪景色のなかでとても目立ちます。また、冬芽も上品な赤色の水滴の形で、どの季節も味わい深い姿を見せてくれる木です。県民の森でも様々な場所に植樹されていますが、記念の森には並木があり、その美しさをじっくり味わいながら散策することができます。



冬芽 2020年3月16日



芽吹き 2020年4月24日



花芽の展開 2020年5月1日



新葉 2020年5月2日



花 2020年5月31日



紅葉はじめ 2020年7月30日